

大阪大学人間科学研究科・人間科学部 災害（地震）発生後の対応簡易マニュアル



【災害（地震）発生時の初動対応】



1. まず、身を守る。
2. すばやく火元の始末。
ガスの元栓、電気コンセント、実験器具などの処置。
3. 非常脱出口の確保。可能であればドアを開ける。

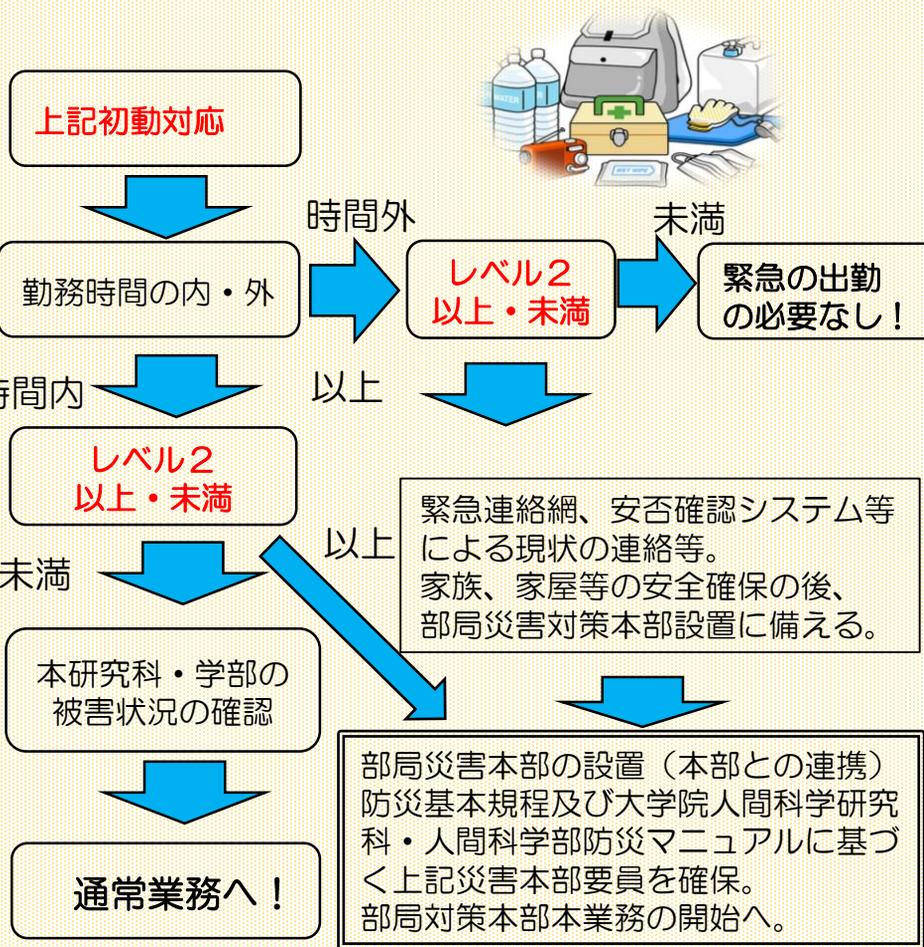


1. 火元を確認。
揺れがおさまったら火の始末。火が出たら初期消火。
2. 周囲の人の安全を確認。けが人の確認と救助活動。
3. 作業中の実験機器などの停止。



1. 隣接する部屋等で助け合う。他の部屋・教室などで
**倒れた書庫の下敷きになっている人がいないか確認。
必要に応じて救助活動。**
2. 落ち着いて避難する。余震に注意。要配慮者への協力。
避難時のエレベータ使用は不可。
3. 安否の確認と連絡。

【災害（地震）発生時の初動対応以後の流れ】



◎レベル2の地震とは！

大阪府又は兵庫県のうち、神戸市、西宮市、宝塚市、尼崎市、川西市、伊丹市、明石市、三田市若しくは、芦屋市において、次のいずれかに該当するとき。

- 1 震度5弱の揺れを観測し、被害の拡大のおそれがないとき。
- 2 震度4以下の揺れを観測し、次のいずれかに該当するとき。
(1) 教職員、学生等で負傷者が発生したとき。
(2) 施設に被害（軽微であるものを除く。）が発生したとき。

◎レベル2の暴風、豪雨、洪水、大雪、火事その他の災害とは！

- 1 教職員、学生等で重傷者が発生したとき。
- 2 施設に被害（軽微であるものを除く。）が発生した場合及び発生の恐れがある場合で、被害の拡大のおそれがないとき。
(以上、大阪大学防災基本規程より)

震度とゆれの状況

0 **【震度0】**
人は揺れを感じない。

1 **【震度1】**
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

2 **【震度2】**
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

3 **【震度3】**
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

4 **【震度4】**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

6弱 **【震度6弱】**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

耐震性が高い 耐震性が低い

5弱 **【震度5弱】**

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

6強 **【震度6強】**

- はわないと動くことができない、飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

耐震性が高い 耐震性が低い

5強 **【震度5強】**

- 物につかまらないうちを歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多い。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

7 **【震度7】**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

耐震性が高い 耐震性が低い

【とっさの行動を身につけましょう！】

地震が発生した時、どのように行動するかによって地震が発生した後の人生を大きく左右します。ケガをすることなく早期復旧に取り掛かるため簡単ですが、重要な行動があります。

- 1、身を守る。
- 2、火の始末をする。
- 3、安全な場所に避難する

以上の3つの行動を日頃から覚えておきましょう！

◎まず、何よりも身を守ることが最優先です！

シェイクアウト訓練により、地震の際に落ち着いて、真っ先に行う身の安全確保行動を身につけましょう。

シェイクアウト訓練で『安全行動1-2-3』！



DROP!

①まず体勢を低くして地面に近づきましょう！（強い揺れで倒れる前に。）



COVER!

②固定された机やテーブルの下に入り、頭を守りましょう！（頭を守るものがない場合は、腕や荷物を使って。）



HOLD ON!

③揺れが止まるまで動かずじっとしていきましょう！（揺れがおさまっても屋外に出ても安全上問題ないと判断するまで屋内に留まっています。）

地震の揺れ自体でケガをすることはめったにありません。地震による死傷例の大半は家屋の倒壊や、ガラスの破片や落下物が原因です。

いざという時にすばやく反応するためには頻繁に練習を積んでおくことが必要です。